

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

国語科

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年	○小学校の既習事項が身に付いている。○語彙力を高める活動に多く取り組めた。▲文法的な知識・技能が十分に定着していない。	・今学期の既習事項を 2 学期も伸ばし、知識・技能を定着できるよう小テストを定期的に行う。 ・夏休み期間に e ライブラリを活用して文法を中心に復習し、2 学期からの授業に備える。	1 年	○硬筆・毛筆の授業を基に文字の形を意識して書いている。▲漢字や語彙力の習得・定着率が低い。	調べるだけではなく、それを活用する技能や習得した知識を定着するようなドキュメントまたスライドの作り方を改善する。	来年度は「書く」時間を増やし、知識・技能において基礎基本の定着を図る。
	2 年	○語彙力を増やし、適切に活用する力が伸びた。○既習内容の定着のため、授業の導入で復習時間を設けた。▲漢字のみならず誤字・脱字等の間違いが多い。		2 年	○硬筆・毛筆の授業を基に文字の形を意識して書いている。▲毎時の漢字テストの達成率が低い。		知識・技能の習得に向けて、各小テストの設定を工夫する。目標設定についても再考する。
	3 年	○意味調べなどの場面を設定し、語彙力を高めることができた。▲文法的な観点で文章を推敲する力が十分に定着していない。		3 年	○毛筆・行書が著しく向上した。○歴史的仮名遣いの正答率が上がった。▲ネット上の情報をコピーするだけのことが多い。		改善の結果、知識・技能の習得に向けて様々な媒体の取組を実施した。Form、Padletが有効であった。
思考・判断・表現	1 年	○対話的な学習の場を増やし、協働的に学ぶ取組を行った。▲文章の表現間違いが多い。▲問題の解き方を十分理解していない。	・説明的文章の読み取り演習問題を設定し、難易度にも配慮しながら取り組む。 ・推敲の前段階として、間違った文章を示し、誤りに気付ける判断力を養っていく。	1 年	○創作小説や 2 0 0 字作文など表現活動の機会を多く設定し、苦手意識が少なくなった。▲発表の場になると表現力を発揮しきれない場面がある。	発表を嫌がる傾向が強い。クロームキャストを用いて今後取り組む機会も設定する。 3 年長文読解については、3 学期に演習の機会を増やし克服を目指す。	字数指定のある文章を書く力を身に付けることができた。発表を表現力豊かに活動することができた。
	2 年	○筆者の考えについて自分の考えをもつことができた。▲説明的文章の読み取りを困難と感じる生徒が多い。▲自分の文章を推敲して直すことができていない。		2 年	○文章の書き方について、理解を深めた生徒が多くいた。▲ネット上の情報をコピーし、発表する生徒がいた。。		全体の前での発表ではなく、クロームキャストを活用することで抵抗なく発表できる生徒がいた。
	3 年	○文章力、表現力が身に付いてきた。○集団討論において限られた時間の中で結論づけをすることができた。▲自身の文章を推敲して直すことができていない。		3 年	○文章の書き方について、理解を深めた生徒が多くいた。▲実力テストにおける、長文読解への苦手意識が強い。		計画的な演習をとおして、実力を身に付け、その成長に生徒が実感しながら伸ばすことができた。
主体的に学習に取り組む態度	1 年	○挙手発言が多く、授業に楽しみながら意欲的に参加している。○ノートを丁寧に作ることができている。▲復習する習慣が身に付いていない。	・現在、国語ノートを家庭学習として復習に活用するよう位置付けているが、これを学校でも活用する。授業終わりに復習の導入時間を設定し、家庭学習につなげられる試みをする。	1 年	○授業を楽しみながら学ぶことができている。○自由意見も活発で授業の雰囲気明るい。▲授業の振り返りに粘り強く取り組めない生徒が数名いる。	授業で配布するワークシートの中に「プラス評価」と題して主体的に各自が取り組める課題を設定している。今後はこの取組にも多くの生徒が参加できるようにする。	意欲的で生徒主体で授業を進められる力がある一方、提出物の提出状況が良くない生徒が半数近くいる。
	2 年	○音読に意欲的に取り組む。○ノートを丁寧に作ることができている。▲復習する習慣が身に付いていない。		2 年	○暗唱テストなど高い目標を掲げ、それを達成できる生徒が多い。▲授業中には取り組めるが、宿題になると取組が低下する。		提出物の状況が大きく改善した一方、「プラス評価」等、主体的に取り組む課題への意欲が低い点を来年度改善する。
	3 年	○授業中の挙手や発言が活発である。○提出物の状況が昨年度より改善された。▲復習する習慣が身に付いていない。		3 年	○授業に明るく前向きに取り組み、授業の進め方などにも、意見もち主体的な授業づくりを行えた。○提出率が上がった。		意欲的に授業に取り組み、楽しみながら学んでいた。提出物など粘り強く取り組み、出せる生徒が大半になった。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）		研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業		・基礎学力コンテストではGoogle formsを活用し、学校以外の時間でも主体的に学習に取り組めるよう設定した。 ・クラス内での創作品や評価を通し、お互いの良さや新しい発見を伝え合う場面を設定した。	○授業アンケートで「授業中に対話を通して学びを深める場面がある」と 9 割以上の生徒が回答した。 ▲国語ノートの有効活用。	・文法の知識習得に向けてGoogle formsを活用し、学校以外の時間でも主体的に学習に取り組めるよう設定する。 ・文章など作品の成果物を通して朗読劇を行う。役割分担や朗読練習において生徒同士のコミュニケーションを増やす場を設定する。		○ICT機器の活用が増え、効率的に進むようになった一方、物理的に「書く」や「話す」という機会が減ってしまった。今後は、相互のバランスを考えながら授業展開を考えていく。	○学習活動の中で意図的にコミュニケーションの場を増やすことができた。 ○主体性を引き出しきれなかった。 ○来年度は「授業で学んだことを将来や社会、身近な生活のために生かすことを考える場面」を今一度模索し設定する。